

「事業名：地域共創による人材育成プログラムの展開
～準住民共創パートナーシップのプラットフォーム形成をめざして～」

立命館大学 連携市町村：川俣町・大熊町・双葉町・楡葉町
現地拠点：双葉郡大熊町おおくまインキュベーションセンター

事業のポイント

福島県浜通り地域等を実践的教育研究のフィールドとし、大学の先端的研究力と地域に蓄積された実践知を融合した人材育成を推進する。震災・原子力災害後の人口減少や産業転換等の複合課題に対応し、地域の持続的復興と新たな社会価値の創出を主体的に支える人材を育成することを目的とする。創発型復興知人材育成プログラム(学部生・院生)や「地域イノベーション人材育成プログラム(地域向け)」の各種人材育成プログラムを展開することにより、多様な働き方を推進する多拠点居住型就業や「ふるさと住民登録制度」を活用した「準住民共創パートナーシップ」のプラットフォーム形成をめざし、様々な担い手が地域を形成する基盤を構築する。

人材育成・定着計画及び目標

各種の学部生・院生向け人材育成プログラムの実施(5年でのべ200名、うち教育実習各自治体年間1名程度の輩出)、移住・定住者5年各自治体10名程度、「ふるさと住民登録制度」登録者5年で各100名、イノベ重点6分野の人材輩出5年で各100名をめざす。

2026年度の活動内容

- 創発型復興知人材育成プログラム(学部生・院生)
 - 【導入】浜通りフィールドワーク学習
 - 【展開】新たな働き方をめざす「地域創発型インターンシップ」(教育実習を含む)
 - 【発展】地域課題解決PBLおよび復興政策・地域政策研究
- 理系研究の活用を含む研究シーズに基づく「地域イノベーション人材育成プログラム」(地域向け)
 - 児童・生徒向けの防災Mapづくりや公開講座、学校教職員向け研修、社会人向けの公開講座、若者・移住者定着に向けた情報交換会の開催等
- 「準住民共創パートナーシップ」のプラットフォーム形成
 - 社団法人などの法人化にむけて、勉強会や準備会の開催



取組によって得られる成果

プログラムに参加する学生や若者が「ふるさと住民登録制度」への登録し、「関係人口」となることにより、学生や若者が単なる短期的な教育活動の「参加者」としてではなく、地域と継続的に関わる「パートナー」として位置づけられる。地域社会の課題解決や地域づくりに継続的に関わる主体とさらに、こうした関係人口として、地域社会の復興と持続的な発展を支える新たな人材基盤の形成につながる。

